

1 教職員研修について

(1) 研究主題

「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践」
—教育の情報化の推進を通して—

(2) 努力目標

- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等において、教育メディアの特性を生かした授業改善に努め、児童生徒の「生きる力」を育成する。
- 高度情報通信社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成

2 夏季実技研修会及び主任会

今年度の情報教育夏季研修会は広教（広島県教科図書販売株式会社）の清水明様を講師に迎えて、情報モラル教育の課題と情報モラル学習用ソフトウェア「Netモラル」の活用についての研修を行った。

(1) 期日 平成30年8月21日（木）13：30～16：00

(2) 会場 伊予市立北山崎小学校

(3) 内容

夏季実技研修会においては、「情報モラル教育の実際と学習用ソフト『Netモラル』の活用について」というテーマで、現在の急速に広がる高度情報通信社会の中で、児童生徒を有害な情報や誤った情報機器の利用からどのようにして守っていくかということについて研修を行った。



3 成果と今後の課題

今年度より、視聴覚教育委員会と情報教育委員会の統合が本格的に始まったことを受け、努力目標もそれぞれの特性を踏まえたものとした。視聴覚教育、情報教育の個々の視点だけでなく、互いの特性を生かせるように研修を進めることができた。

インターネットに接続できる機器が増えて便利になった反面、これまでの大人が経験したことがないような多くの情報に子どもたちはさらされている。その中で、学校として取り組むべき情報モラル教育の在り方や、情報モラル教育を全ての教員が行うことができるようにするために有効な学習ソフトウェアの使い方について学ぶことができた。今後、本研修で学んだことを、各学校で広め、情報モラルについての学習を各学校の教育課程に位置づけることが必要である。また、児童生徒に正しい知識を伝えたり、安全にインターネットを活用できる力を育てたりするために、教職員が、ICTへの理解を深め、学習に活用するためのICT活用力の向上につなげたりする取組が重要である。

視聴覚・情報教育については、環境面の充実を図りつつ、担当者だけでなく多くの教員が積極的に学習に活用できるよう働きかけることが必要である。